

令和8年2月24日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）都市部における県立高校再編の必要性について

将来の生徒の学びを最優先に据えた県立高校再編に向けた教育委員会の決意を伺うとともに、再編によって、予算や教員などの教育的資源の選択と集中をどのように行うのか、併せて教育長の所見を伺う。

（答）

少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が進行する一方で、AIの実装などデジタル技術が目まぐるしく発展しており、今後も現在の人材供給トレンドが続いた場合、いわゆる事務職が余剰となる一方で、理系人材が不足するなど、労働力需給ギャップが生じる可能性が指摘されていることから、高等学校の役割として、

- ・ 不確実な時代に自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長、
- ・ 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材の育成

などが急務であると考えております。

このため、この度の県立高等学校の再編整備計画の素案は、

- ・ AI等のデジタル技術を活用して、ものづくり等の地域産業の持続的な成長を牽引する専門人材や、
- ・ 地域の持続的な発展を支える人材など

多様な人材を育成するため、学校統合と学科改編を組み合わせることなどにより、少子化が進展する中であっても、生徒が授業等において一定の選択幅を持つことができ、集団の中で切磋琢磨しながら多様な体験・学びができる教育環境を整備しようとするものであり、教育委員会だけでなく、地域や産業界とも連携しながら取り組んでまいりたいと考えております。

また、教育資源の選択と集中に関しましては、県立高等学校の建物の多くが昭和50年代に建てられたもので老朽化が進行していることに加え、今後も、生徒数の減少に伴って教職員定数の減少が見込まれているところでございますが、再編整備を行う学校につきましては、本県の地域社会や産業の未来を支える人材を育成する拠点として、最先端を学ぶ高等学校の特色化・魅力化となるよう、教育資源を優先的に投入したいと考えております。